



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (10月13日～15日)

1. イラン中央銀行による債権発行 (13日付イラン紙)

流動性を減少させるためイラン中央銀行が発行する債券(参加債)は、現在、セパフ銀行、サーデラート銀行、テジャーラト銀行、EN銀行、パールスィヤーン銀行で購入可能となっている。当債権は年利20%であり、第一弾として発行された今回の発行額は25兆リヤルである。

2. ドルの偽造紙幣の市場流出 (13日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

国会経済委員長は、「この数日間で、50億ドルの偽造紙幣が市場に流出している。不幸にもこれらは現在国民の手にあり、国民は注意深くこれらのドルを扱うべきである」と述べた。

3. 外貨割りリストと車両 (13日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

現在、外貨割りリストのカテゴリー10に登録されている低燃料車、建設車両、公共交通車両は、貿易推進機構によって、カテゴリー8に再登録されている。高燃費車はカテゴリー9に登録されており、市場レートによって輸出されなければならない。

4. OPEC理事のイラン産原油輸出に関する発言 (14日付ケイハーン・インターナショナル紙)

イランのハティービーOPEC理事は、IEAが発表した報告書の内容を否定し、「足元でのイランの原油輸出は、過去数カ月を変わらない水準で安定的に推移している。言及されている中国、インド、韓国、日本、トルコの他にも輸出しているが、弊害をもたらす恐れがあるため、多くは公表しない」とした。

5. イスラーム開発銀行とのインフラ開発協力 (15日付イラン・ニュース紙)

イスラーム開発銀行のムハンマド・アリー総裁と、シャムソッディーン・ホセイニー経済財務大臣は、イラン国内の4つのインフラ開発プロジェクトに関し、協力体制を築くことで合意した。同合意は、東京で開催されていたIMF・世界銀行年次総会の席で行われた。

6. 油田に関する石油省高官の発言 (15日付イラン・ニュース紙、メフル通信の引用)

石油省高官は、一部油田が隣国に面していることにより、毎日30兆リヤル分のロスが生じていると述べた。アブドラーザーデ国会議員は、同問題に関し、「共同油田(隣国と接している油田)に対する予算の増額を行い、生産量増加につなげるべきだ」と発言した。